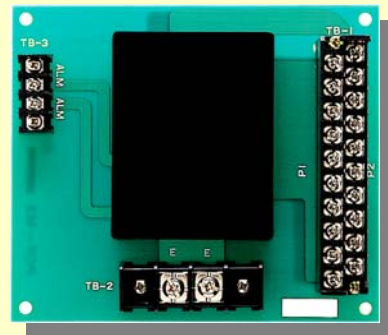
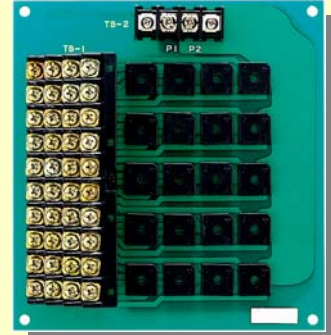


避雷対策について

避雷ユニット/ご紹介



【A】アレスタユニット



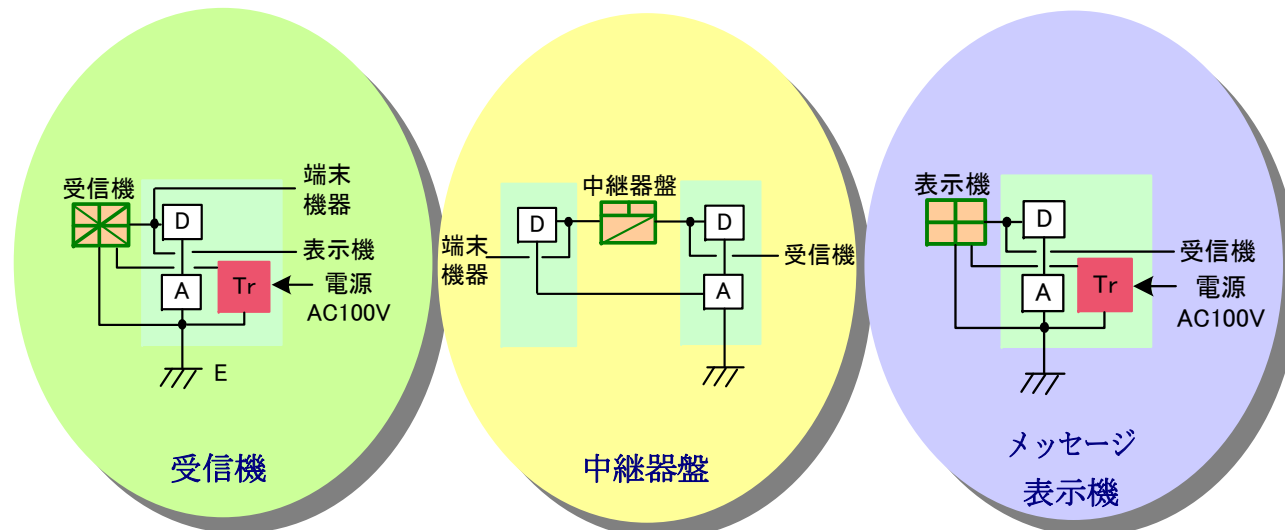
【D】ダイオードユニット

【概要説明】

避雷ユニットは、信号ケーブルおよび接地線より侵入する雷サージ（電圧・電流）から、自動火災報知設備（受信機等）を保護します。

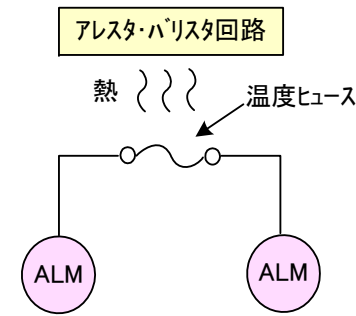
本システムは、アレスタユニットおよびダイオードユニットから構成され、これらを回線数に応じて組み合わせます。また、受信機・メッセージ表示機等の電源側から侵入する雷サージについては、ノイズカットトランス等を設置することにより、雷害（落雷が原因となる災害）より防災機器を水際で食い止めます

【避雷ユニット設置例】



《注意》アレスタユニットとダイオードユニットは必ずセットで使用します。どちらか1種類では保護システムを構成できません。また、結露の発生する場所では使用できません。

【動作原理】



避雷ユニットに規格以上の大電流が通過した場合、通電時の熱により温度ヒューズが断となります。このとき、端子ALM-ALM間は開放状態となりますので、定期的に点検を行う必要があります。温度ヒューズが断となった場合は、アレスタユニットの交換が必要です。

【保守点検について】

避雷ユニットの性能維持および劣化による回線傷害を未然に防止するためには、定期的な保守点検が必要です。点検時期としては、冬期雷、夏期雷を考慮し、4～5月に行うことが望ましく、点検は1年に1回以上行うことをお奨め致します。また、避雷ユニットは規格以上の大電流が通過した場合、温度ヒューズが開放状態となりますので、定期的にテスター等で導通試験を行うことが望まれます。